

水平社宣言から百年を迎えて

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」

全国水平社が創立されて百年を迎えた。水平社宣言は、部落差別の解放だけでなく、あらゆる差別からの解放をめざしていることから、「日本で最初の人権宣言」と言われている。

各地で、水平社宣言に込められた思いや願いを伝え、差別をなくしていかうと様々な人権について考える会が開かれている。また、島崎藤村の小説「破戒」が映画化され、七月に公開された。

学校で学習していること

四国中央市の学校では、小学校六年生で、西光万吉の生き方を扱った教材を学習する。また、中学校では、二年生が西光万吉の生き方から学び、宣言文

に込められた思いに触れ、差別をなくす生き方について考えていく。

明治四年、明治政府は太政官布告「解放令」を出し、身分制度は廃止された。しかし、差別をなくすための政策をとらなかつたことや、人の心の中にある差別意識があつたことで差別はなくならなかつた。差別は放つておいてもなくならない。私自身の心の中を振り返ってみると、大勢の意見に流されたり、いつの間にか決めつけていたり、自分の中で上下を決めて偉そうにしたり、人によって態度をかえてしまう自分に気付くことがある。これからも学習を積み重ね、自分の中にある差別の芽に気付いて、おかしな行動や言動を取り除いていく自分でありたい。

家庭や地域で

四国中央市では、「人権尊重のまちづくり条例」を制定し、すべての人の人権が尊重されるまちを目指している。

それを実現させるための一つの取り組みとして、重大な人権侵害や差別行為である身元調査をこのまちからなくしていかうとする「身元調査おこわり運動」がある。

自分の知らないところで、プライバシーに関わることを近所や知人、興信所等を通じて勝手に調べ、その情報をもとに結婚や就職の時に差別されることがある。これは許されることではない。

市が取り組むこの運動は、身元調査をしませんという意思を明確にし、自分や周りの人々の人権を守ろうとするものだ。

また、身元調査等の理由で不正に請求されることを防止するために「本人通知制度」という制度がある。事前登録申込書を申請すれば、代理人や第三者が

被差別部落に生まれた西光万吉は、小さいころから差別を受けてきた。どこに行っても差別が目の前の壁になつていた。何度も差別にあつた。逃げてでも我慢してもなくならない差別に、最後には、立ち向かおうと考えるようになった。差別をなくす仲間がいたこと、人間らしい生き方をしたいと強く願つたこと、何よりこの差別を放つておけないと考え、この決断をしたのだ。この差別をなくしたい、自分たちが行動するしかない。団結したら世の中が変わる。そんなふりしぼるような思いで仲間とともに水平社を設立していった。

大正十一年三月三日、差別の解消を目指して設立した「全国水平社」。創立大会で読み上げられた宣言文が水平社宣言である。

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」全国水平社宣言の心に残る一文である。長い歴史の中で不当な差別を受けてきた人々のてひどい人権侵害があつた。そんな中で、ウイルスに感染しても、だれもが地域で笑顔のある暮らしを取り戻せる社会に、「ただいま」「おかえり」と心から言い合えるようにとシトラスリボン運動も広まつてきた。

感染症対策をどうすればよいか分かり、ワクチン接種をする人も増えた。しかし、だれもが、感染する可能性がある。今は、そのことを暴いたり広めたり責めたりすることははずいぶん減つてきている。

このコロナ禍で、だれもが、当事者の立場になつて考え、正しい行動がどんなことなのか分かつてきたのではないか。

水平社宣言から百年たつ今、あらゆる差別を許さず、誰もが一人の人間として尊重される社会になつただろうか。

近年、人権尊重の気運が高まり、様々な人権問題が認識されるようになってきた。

思いがつづられただけでなく、すべての人があらゆる差別を受けることなく、人間らしく暮らしていける社会の実現を願う気持ちが進められている。この言葉に込められた当時の人々の思いや願いから、今の私たちは大切なことを知り、学ぶことができる。

厳しい差別意識が社会の中にあつた時代、西光万吉らは、自分たちの手で、差別をなくしていかうとした。祖先が差別をなくす生き方をし、差別をしてこなかつた自分たちのことを誇りに思い、自分たちの行動で差別と闘おうと決心した。

人の痛みを知っているからこそ、人間らしく人を尊敬することと人を大切にすることで差別をなくそうとした。

でも、百年を迎えた今、改めて問う。差別を本当になくさなければいけないのは誰なのだろうか。

それは、今を生きる「私」自身であることは間違いない。

インターネットやSNS上での誹謗中傷、性のあり方についての差別や偏見、新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害など、だれもが、直面する問題になつてきている。そのことから目をそらしてはいけない。

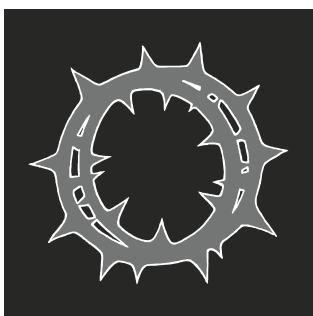
今こそ、水平社宣言に込められた当時の人々の願いに思いをはせ、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題を「私」の問題として、しっかりと向かい直す決意をし、すべての人の人権が尊重される豊かな社会をつくっていくことが必要だ。

私自身、人を大切にできる、差別をなくす行動をする自分でありたい。

今考えること

未だ猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症。

初めのうちは、自分が感染したくないからか、感染した人に対して、攻めるような誹謗中傷などがあつたり、誰が感染したのか暴こうとしたりいろいろなうわさが飛び交つたりと当事者や家族、医療従事者などに対し



部落解放運動のシンボル